

氏名（本籍）	ナカ ニシ サ オリ 中西 紗 織（和歌山県）
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	博音第130号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文等題目	〈論文〉能における「わざ」の習得に関する研究 －事例分析からの学習プログラムの開発を通して－

論文等審査委員

（総合主査）	東京芸術大学	准教授	（音楽学部）	山下 薫 子
（副査）	〃	教授	（ 〃 ）	武田 孝 史
（ 〃 ）	〃	准教授	（ 〃 ）	塚原 康 子
（ 〃 ）	〃	〃	（ 〃 ）	杉本 和 寛
（ 〃 ）	〃	名誉教授		山本文 茂

（論文内容の要旨）

本研究の目的は、第一に、能における「わざ」の習得の方法原理としての守・破・離（江戸千家川上 不白の言葉）の関係を見直すこと、第二に、「わざ」の習得過程の根底にあるものを突き止めること、第三に、それらを中核とした学習プログラムを構築することである。

能における「わざ」の習得過程の解明を試みるにあたって、生田久美子氏の伝統芸道における「わざ」の習得に関する研究から多くの示唆を得た。生田氏がとりわけ重視しているのは、「わざ」の「世界への潜入」、「わざ」の伝承、「型」の習得である。筆者はこの点に注目し、能の「わざ」の世界においてこれらのことを具体的に再検討することを試みた。

音楽教育学の視点に立って学習者の立場から「わざ」の世界を捉え直したときに見えてくるのは、経験に即したリアルな（身体感覚を伴った）「学習プログラム」の可能性である。「学習プログラム」は、具体的な学習の計画である。この具体的な学習の計画に関して、本研究では、時間的・空間的制約を大幅に緩和した計画を想定して、「カリキュラム」や「教育課程」とは異なるものとして「プログラム」という語を使う。なお、本プログラムでの体験や実践における学習内容は、能のシテ方からの教授に限り、囃子（楽器）の実技は含まない。

能の「わざ」の習得過程を明らかにするにあたって、本研究では先行研究に倣い、守・破・離の段階を軸としてその過程が展開していく構造を解明し、学習プログラムで扱うべき内容は守から破への過程であるという結論に至った。その根拠となるのが第一章から第三章である。すなわち、第一章、第二章において「わざ」の習得過程を解明するための理論的基礎を示し、「わざ」の習得過程における学習内容や方法原理の構造を図式化した。ここには、筆者自身が素人の弟子として能の「わざ」の世界に関わっている経験からの具体的な視点が反映されている。また第三章において、筆者が指導者として行った大学や専門学校での授業実践の分析・検討を行い、それを「こまちのかい」（専門学校卒業生4名を対象とした能に関する試験的プログラム）で検証し、さらにここでの学習活動を詳細に分析・検討した結果から、学習プログラム作成にあたっての実践的な方針を得ることができた。その上で、実践的展開における可能性を探り、「わざ」の世界における方法原理と習得（学習）内容の対応関係を図式化した。これを基盤として、第四章において、理論と実践のスパイラルな展開を考慮した能の学習プログラム・モデルを提示した。

結論として以下の三点をあげる。

1. 能の「わざ」の習得過程では、守・破・離の三つが求められるが、守と破の学習過程においても常に離の段階が目指されなければならない。
2. 能の「わざ」の習得過程の根底にあるものは、守・破・離で示すことができるような方法原理と、「形」「型」「わざ」という段階で示すことができるような習得内容の対応関係である。
3. 上記1、2のねらいを実現した学習プログラム・モデルの実践を通して、学習者の「わざ」の習得への本質的基盤が形成される。